

## 丹波篠山市中高連携について

丹波篠山市教育委員会

市内の中学生が市外の高校への進学を希望する割合が増加傾向で、市内の3高等学校においては入学希望者が募集定員に満たない事象が生じている。この課題に対し市内の中学校・高等学校・市・市教育委員会が連携し以下の取組を展開している。 **【資料1～3】**

### 1. 丹波篠山市中高連絡会での協議開始

課題の共通認識や減少にかかる原因把握、対応策を検討するために「丹波篠山市中高連絡会（以下「連絡会）」を設け、市内中学校・高校の校長及び教育長ほか市教育委員会職員での意見交換を開始した。

丹波篠山市中高連絡会(第1回) R3.5.13 課題の共有と対応策の提案

----- 第1回の提案を参考に事業実施 -----

// (第2回) 7.09 今後の取り組み検討

// (第3回) 12月(予定) 令和4年度の取り組み

#### (1) 連絡会での意見、提案 (第1回会議)

##### 【高校への提案】

- ・強み、魅力の発信に注力する（魅力的な取り組みが周知できていない）
- ・中学生へ働きかけるタイミングを大切にする（2年生の冬から3年生の夏まで頻繁に）
- ・中学2年生に対する夢プランから取り組みはスタートしている
- ・中学校を訪問しPRや情報収集を行う
- ・中学校出身の先輩からの情報は影響が大きい など

##### 【中学校ができること】

- ・高校への情報提供、
- ・学校訪問の受け入れ
- ・オープンハイスクール参加の斡旋 など

##### 【市ができること】

- ・広報丹波篠山やHP等で高校のPR
- ・現在の状況に応じた支援策の検討
- ・全庁的に情報共有し協力体制の構築

→ 高校の魅力や優れた取り組み、在校生（高校）の満足度が十分に中学生や市民に周知できていないこと、短期的な対策として令和3年度においては7月下旬から8月上旬に実施するオープンハイスクール(※)までの働きかけが重要であることを確認し、速やかにできる活動を展開することとした。

(※) オープンハイスクール 鳳鳴 7/30(金).31(土) 産業 8/4(水).5(木) 東雲 8/4(水)

## (2) 協議の結果等から取り組んだこと（主に上半期）

### ① 各高校の取り組み

教職員による学校改革推進チームを設置（鳳鳴）や学校紹介ビデオを作成（3校すべて）、JR篠山口駅自由通路に3高校を紹介するポスターの掲示（調整中）。

### ② 中高連携事業 高校の中学校訪問（6/28～7/2 市内5中学を順次訪問）

【資料4】

市内3高校が中学校を訪問し、3年生を対象に学校紹介を行うとともにオープンハイスクールへの参加を呼びかけた（先輩のメッセージを含む動画などにより高校の雰囲気を伝えた）。

#### 中学校の反応

- ・説明会は好評、先輩のメッセージなどで高校の雰囲気がよく伝わった。
- ・高校の説明を聴きオープンハイスクールに行くきっかけになった。
- ・高校側の熱意が伝わった。

など

### ③ 市の取り組み

- ・②を市で主催するなど「丹波篠山の高校へ行こう2022」として支援策を検討・実施している。
- ・広報丹波篠山で特集記事（8月号・12月号）、表紙（7月、8月、12月号）に掲載した。
- ・広報8月号、12月号特集記事を別刷りし、中学3年生や中学校、高校に配布した。

【資料5】

## 2. 市による高等学校支援

事業を効果的に発展させていくために、以下の4項目について予算措置を行った（9月）。

### (1) 市内高校の独自活動の支援

魅力アップにつながる活動（啓発・周知含む）や調査研究等、高校による課題解決に向けた独自の活動を迅速かつ容易に行えるよう、市内3高校それぞれに300千円を交付。

### (2) 有識者等への協力依頼

課題に対するアドバイスが必要になったときに、その課題に通じた専門家に協力を求める。

- ・効果的なPR資料の作成についてのアドバイス
- ・講演会 「10年間の地元高校の話題の変化」 など

### (3) 教育アドバイザー依頼

当市出身で元文部科学審議官の山脇良雄氏に教育アドバイザーを依頼。

### (4) 中高連絡会の開催

本年度の反省評価をもとに、令和4年度の中高連携事業を連絡会において決定する。

## **3. 調整を進めている支援策**

令和4年度の生徒募集が始まっていることから、課題とされているものについて、市で対応可能な支援については速やかに検討する。また、高校ごとに状況も異なることから、高校に応じた支援のあり方も併せて検討する。

### (1) 市単独での支援策検討

#### ① 通学支援

立地条件（駅から遠い）は共通した課題であり、通学支援等への検討が必要と判断し、路線バスルートの見直しなど市内各地区からの通学しやすい環境づくりを考える。

#### ② 高校の魅力づくりの支援

高校による魅力アップにつながる活動（啓発・周知含む）が重要な要素であるため、市からの支援を継続する。また中学校との連携においては、効果を上げるための方策について、今後も検討と実施を継続する。

### (2) 個別の対応を検討

高校によって状況が異なることなることから、現状に応じた対応策を検討する。

令和3年度後半からは、定員割れが増加傾向にある鳳鳴高校への対応を実施している。

篠山鳳鳴高等学校においては定員割れが増加傾向にあり、更に令和4年度の進学希望調査においても厳しい状態が見られるため、同校を対象に現状の原因や対応を検討するため、丹波篠山市の教育アドバイザー山脇良雄氏による関係機関（中学校・高校・市・市教委等）との意見交換を実施し、対応を検討中。